

The Evaluation of the Early and Late Postoperative Pancreatic Function and Nutritional Status: Central Pancreatectomy Versus Distal Pancreatectomy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 出雲, 渉 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032093

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2976 号	氏 名	出雲 渉
審 査 委 員 会	主 査 教 授	市原 淳弘	
論文審査の要旨（400 字以内） 膵体部の低悪性度腫瘍に対する、膵中央部切除術(CP)と体尾側膵切除術(DP)の安全性と膵機能温存に対する成績を検討した研究である。CP 群では、全期間を通じて HbA1c に有意な変化を認めなかったが、DP 群では、HbA1c が術後 6 ヶ月以降有意に上昇し続けた。CP 群の Alb は術後上昇したが、DP 群の Alb は術後 60 ヶ月目で術前と差を認めなかった。術後脂肪肝、膵消化酵素補充の必要、糖尿病新規発症は CP 群では全て 0%であったが、DP 群では認めていた。また、術後膵液漏に両群間で差はなかった。以上より、CP は DP と同等な安全性と長期的な膵機能温存を期待できる術式と考えられた。臨床的な背景を基に明確な目的をたて、堅実な方法で解析し結論を得た研究である。しかし、小規模な後ろ向き研究であるため、バイアスの存在を無視できない。今後は、切除する膵体積別に残膵機能を評価する研究へと発展させていくことが期待される。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）【学校教育法学位規則第 8 条】			